資料４－５

進捗状況シートに係る質問・回答

質問番号	質問内容	回答
1	**全般** （１） 評価項目毎の自己評価についてですが、テーマ・項目により、①当該テーマ・項目自体の価値を評価しているもの（未実現でも目標が有意であることを評価）、②例えば検討段階なので、実現した場合の価値は高いものの、現段階では低評価としているもの、が混在しているように感じられました。①とした場合には、目標が具体的に実現した場合でも評価は大きくは変わらないようになりますし、②の場合は着手したばかりの段階では非常に低評価となります。自己評価の考え方について（改めて）教えていただきたくお願いします。事後的に、各項目が進捗した結果、評価も向上したというみちゆきにする観点も重要ではないかと思いました。 （２） 全体的に費用対効果が期待されていますが、そもそものイベントに対する費用の提示がないので、各部署の課題に対する真剣度等が不明に感じます。 （３） 外部委託が増えていますが、以前と以後の費用対効果の一覧などは、何処で確認できるのか知りたいと思います。	（１） 評価項目ごとの自己評価ですが、今回は計画開始後最初の自己評価であったため、各部署において「この事業がいかに重要か」と「現在の立ち位置」の双方が評価に反映された結果でありますが、あくまで部署による「自己評価」ですので、数値が実態と合わないと感じる点などは、ぜひ委員の皆様の客観的な視点から「意見シート」にてご指摘をお願いいたします。 （２） 取組の内容によっては、費用が算出できないものもございます。費用対効果があったものや、市民サービスの向上や業務の効率化につながったものについては、進捗状況シートにその内容を記載しております。財政効果額がどのぐらいであったかは、プランの取組期間終了後に委員の皆様にお示ししたいと考えております。 （３） 本プランの外部委託の取組に関しては、テーマ５の「民間活力の活用・官民連携の推進」に係る取組項目が該当いたしますが、（２）の回答のとおり、財政効果額がどのぐらいであったかは、プランの取組期間終了後に委員の皆様にお示ししたいと考えております。
2	**利便性・サービスの自己評価** 本項目では、「利便性・サービスの効果との関連性が薄い」と自己評価されているものもいくつかみられます。例えばＰ４３、Ｐ３１等、人手確保困難なためサービス低下が想定されているものについて、無人化や委託によりサービスを維持できるようなものは、本項目でポジティブな評価をしても良いように思いました。	進捗状況シート全般についての（１）のご質問の回答と重なりますが、担当部署による「自己評価」となりますので、「意見シート」にてご指摘をお願いいたします。

質問番号	質問内容	回答
3	**１【税外収入の拡大（ふるさと納税等の拡大)】　Ｐ２** **１３【重層的支援体制整備事業の実施】　Ｐ１４** **１６【デジタル・ディバイド対策の充実】　Ｐ１７** **２６【車両管理業務の在り方の検討】　Ｐ２７** **４８【市立病院におけるデジタル化への対応】　Ｐ４９** それぞれの「推進実績」算出方法を教えてください。	進捗実績の算出方法については、原則として最終的な目標達成を 100%とした際、各年度の工程に照らして、現時点でどの地点まで到達したかを数値化したものです。 例えば、取組項目１【税外収入の拡大（ふるさと納税等の拡大)】については、２つある到達目標のうち、Ｒ９に制度導入予定だった「返礼品拡大の補助制度等導入」については、Ｒ７に完了したので、達成率が 100%、また、もう一つの目標である「３事業者が制度を利用」については、Ｒ７末時点で活用実績がないため、達成率が０％です。本項目では、これらの取組の比重を同等と捉えているため、単純計算により進捗率は 50%と算出しました。 このように、取組項目によって、目標の数や比重、また進捗の度合いが異なるため、各部署において実施計画に基づき、進捗実績を算出しております。
4	**２　【基金の運用による税外収入の確保（債権運用)】　Ｐ３** 当初、運用額を３億円としていたが、実際は４億円になっています。これは、次年度以降の計画運用額を前倒したのでしょうか。	令和７年度の債券運用は５年間の新発債を２億円、償還期限まで約２年間の既発債を２億円運用いたしました。プラン策定当初は、毎年３億円を運用していく計画でしたが、昨今の金利の上昇などの社会経済情勢と市の資金繰りの状況を鑑みまして、短期間の運用も実施することとしたものです。
5	**３【広告料収入の確保、ネーミングライツの導入拡大】Ｐ４** Ｒ７の収入増加+4.7%について、件数増と単価増に分解した場合、どのような内訳になりますでしょうか。	収入増加の内訳としましては、令和５年度と令和７年度で件数が同数であるため、単価増が要因となっております。

質問番号	質問内容	回答
6	**２１【持続可能な町内会活動の推進】　Ｐ２２** 取組内容、取組予定に「活性化のため町内会合同事業の実施」とありますが、具体的にどんな事業を予定しているのでしょうか。 また、「合同事業」に対するものが、達成計画に含まれていないのですが、何か目標としている目安の数値などがありましたら教えてください。	持続可能な地域づくりの取組の一つとして、町内会が行う夏まつり、クリスマス会等の行事を他の町内会と合同で実施することにより、その後の町内会同士の交流を促進するため、実施した行事に要した費用の一部を助成しています。 昨年度は、２町内会合同によるパークゴルフ親睦会が企画され、当日は雨天により BBQ 懇親会となりましたが、１件の助成を行いました。 予算を３件分確保しておりますので、現状の目標は３件です。
7	**２４【新たな企業誘致手法の展開】　Ｐ２５** Ｒ７の達成計画「企業誘致手法の検討」に対して、実績は、「新たな手法の実施」「PR 施策を実施」とあり、当初計画よりも進んでいるように見えるのですが、進捗率が 40%となっており、どのように評価されたのか教えてください。 また、市内視察ツアー等がＲ８年度で終わっており、目標とする企業誘致が実現するまで継続した方がいいのでは、と思いました。何か予算等の関係で、２か年の計画なのでしょうか。	当取組につきましは、令和７年度から新規事業として開始したものであり、次年度以降の継続とノウハウの確立、そして、実際に企業進出に結び付くのがこれからとなる見込みのため、進捗率 40%として評価しております。 ご指摘のとおり、企業誘致の取組は時間を要することから事業を継続的に進めることが重要だと認識しております。 ※当調査のタイミングの関係で、予算の承認を得ている令和８年度までしか記載しておりませんが、それ以降も継続して事業の実施体制を整えていきたいと考えております。
8	**２９【JFE リサイクルプラザ苫小牧の在り方の検討】　Ｐ３０** Ｒ８とＲ９年度の目標及び達成に変化が見受けられないのに、なぜ進捗%が増加するのでしょうか？	苫小牧市環境学習交流施設の開館は、令和８年１０月３日を予定しています。 令和８年度は開館準備及び半年間の事業実施について、進捗率を設定しています。令和９年度については、令和８年度の事業実施内容を踏まえ、施設としての有用性を高めていくために年間を通じて事業を実施することから、目標への進捗が進むと判断しています。

質問番号	質問内容	回答
9	**３１【公的不動産（ＰＲＥ）の積極活用】Ｐ３２** Ｒ７年度の年間収入7.8億円の内訳（売却額、賃貸料）を教えてください。またＲ６年度対比の数字もお願いします。加えて、現時点での未利用不動産の数（規模）を教えてください。	Ｒ７年度の年間収入についてですが、貸付収入の記載が漏れておりました。売払収入が7.8億円、貸付収入が４千万円で、合計8.2億円となっております。 Ｒ６年度の売払収入は8.8億円、貸付収入は４千万円でした。 現時点での主な未利用不動産は、ウトナイ地区の工業団地や矢代町の道路管理事務所跡地、のぞみ町の給食センター跡地などがあります。
１０	**３１【公的不動産（PRE）の積極活用】　Ｐ３２** **３９【生成ＡＩの利活用】　Ｐ４０** 両方とも既にＲ７年度においてＲ１１年度までの目標を達成しています。新たな課題や目標を達成するのでしょうか？なぜ、こうなったのでしょうか？原因と改善策は？	**３１【公的不動産（PRE）の積極活用】** 不動産売却は、売る土地と相手があってのことで、事前の想定が難しく、毎年の目標は予算と連動しているため、努力と工夫により実現可能と見込まれる数値にしています。 Ｒ７年度に全体の進捗 82%まで達成した要因は、ウトナイ地区で数億円の工業用地が成約したためです。継続的・長期的に同様の収入が見込めるわけではございません。 市有地の売却が進み、そのような大型案件は少なくなってきているため、新たな目標設定については次年度以降に検討したいと考えております。 **３９【生成ＡＩの利活用】** 当初の目標値は、令和６年度に実施した実証事業での利用実績をベースに、段階的な普及を見込んで設定しておりました。しかし、生成ＡＩの回答精度の飛躍的な向上に加え、継続的な研修の実施等によって職員の認知度や活用スキルが想定を大きく上回るスピードで浸透したことが早期達成に繋がったものと考えております。 この結果を踏まえ、中間見直しのタイミングにおいて、現在の利用実態に見合った適切な水準へと目標値を上方修正したいと考えております。引き続き、さらなる活用に向け、質的な向上に取り組んでまいります。

質問番号	質問内容	回答
１１	**３３【小・中学校規模適正化の推進】　Ｐ３４** 統廃合は致し方ないとして、児童・生徒に生じる不公平感に対しては、何か対処可能なのでしょうか？	市教委が今年の２月に策定した「苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）」は、少子化時代における教育環境の維持・向上を図るため、学校の統廃合を含む再編案をお示ししたものです。 今回の再編は、市内全体のバランスを鑑みながら、小規模校を隣接校と統合し、適正規模校にすることを基本的な考え方としているため、小規模校では得られにくい教育環境を提供することができるようになるものと考えております。 また、統合により、通学先が変更となる児童生徒に対しては、通学距離や時間が長くなる場合のスクールバスの運行や自転車通学、通学交通費補助の検討などにより、すべての児童生徒の安全・安心な通学につなげるほか、統合先の学校との事前交流などにより、統合後の円滑な学校生活につなげていけるよう準備してまいります。
１２	**３９【生成ＡＩの利活用】　Ｐ４０** 達成状況に記載している業務削減時間は、どのように計算しているのか教えてください。 達成計画では、文字数、業務削減時間、しか記載されていないのですが、生成ＡＩが活用される範囲、内容などの計画があれば教えてください。	業務削減時間の算出根拠は、令和７年度末に実施した「効果測定アンケート」の回答結果を集計（積算）したものです。定性的な評価ではありますが、「週３時間以上の効果があった」との回答が 13.1%にのぼるなど、一定の効果を確認しております。 活用範囲につきましては、私どもの業務は文書の作成や校正、議事録の作成など、文書関連業務が多くを占めており、チャット型生成ＡＩとの親和性が非常に高いと感じております。引き続き、行政事務全般において活用の徹底を図るとともに、今後は、ニーズの高い「個人情報を扱う業務」での安全な活用や、より高度な支援が可能なＡＩエージェント等の導入も視野に検討を進めてまいります。 現時点で生成ＡＩに特化した個別計画はございませんが、技術進展をできる限りキャッチアップし、人的資源の有効活用と行政サービスの向上に向けて、積極的な活用を進めてまいります。

質問番号	質問内容	回答
１３	**４３【フリーアドレス化に向けた環境整備】　Ｐ４４** 「フリーアドレス」などの和製英語は、今後増える外国人の市政理解にも少なからず問題となりうるので、正式な英語「desk sharing/ hot-desking」を使用しませんか？	外国籍の市民の方々への配慮という重要な視点をご指摘いただきありがとうございます。 ご指摘のとおり「フリーアドレス」は和製英語であり、英語圏の方には誤解を招く可能性があるという点は、仰る通りかと存じます。 しかしながら、本プランの取組項目名につきましてはすでに確定しており、現段階での文言修正は難しい状況にございます。 そのため、本プラン上の表記は現在のままとさせていただきますが、誤解が生じないよう、意見書の脚注欄に解説を記載するなどの対応を行ってまいります。